「あそこにも、ここにもいっぱいだ」
十二所果樹園で家族でクリ拾い

「わあー、クリがいっぱい」「痛てて、いがのとげが刺さった感じ」―鎌倉風致保存会（上野豊理事長）たちのクリ拾い。

が、緑地保存のため所有している十二所果樹園で、9月7日午前10時から「家族たちのクリ拾い」が行われた＝写真。

約5ヘクタールの園内にはウメ4百本のほかクリの木が2百本ほどある。初秋のころ小学6年生以下の子どもとその家族を対象にしたクリ拾いをしている。

60組の申し込みがあり、くじ抽選で30組約5百人の家族たちが参加した。バス停から2キロメートルほどの山道を汗だくで歩いて会場へ。はぜたクリがいっぱい。軍手、ビニール袋を渡され、いがを開けながら、大きなクリを摘まみ出していた。

拾ったクリはキロ5百円で即売した。好天続きで例年になく出来がよく、「甘味も十分」。大船の小学1年生の長女と両親の3人は「昨年面白かったので今年も応募した。子どもは大喜び。今夜はクリご飯、余ったクリは渋皮煮にしたい」と楽しそうだった。

琵琶の音色。能の世界に堪能
御霊神社で「ろうそく能」初演

うっそうとした鎮守の森に響く琵琶、能の謡い、鼓の音。鎌倉市坂ノ下の御霊神社（小林孝男宮司）境内で9月4日夕、「ろうそく能」が初演された。

本殿横の広場に設けられた30平方メートルほどの舞台。杉やイチョウの大木が茂る。夕暮れとともに百目ロウソクが点灯される。ロウソクの灯が散らないよう半紙をラッパ状に包み、明かりが仮設舞台に向かうように工夫されている＝写真。

鎌倉市内在住の日本琵琶楽協会理事長・須田誠舟さんの薩摩琵琶の弾き語り。西郷隆盛の最期を歌った名曲「城山」が、一人を相手にせず、天を相手にすべし…」と琵琶の音色とともに響く。

続いて光源氏の恋の葛藤を描いた名作「葵上」が上演された。人間国宝の金春流櫻間右陣さんら一門の人たちが源氏物語千年紀記念にちなんで熱演した。

神社総代らで実行委を立ち上げて主催、岩崎浩一郎副会長が「地域の文化振興のために」とあいさつ。2百席を埋めた鑑賞者は満足気な表情だった。

ひと
風景画の大作を鎌倉市に寄贈した
小泉（こいずみ）　元生（もとお）さん

「長年お世話になっている鎌倉市民に喜んでいただければ…」

鎌倉市に8月末、百号の油彩画を寄贈した。鎌倉市の希少な芸術家のひとり。「鎌倉は海岸がすき。とくに江ノ島は画材に最高」

アトリエにいるより、画材を持って外に出かけ、現地で描くことが多い。立って描くが、気がつくと、動き回って地面が足跡だらけになっているという。

「昔は100号でも折りたたんでバスに乗って出かけて行った」今も8号ぐらいの絵を年間150枚ぐらい描く。

1928年、父親の赴任先の呉市で生まれた。6人兄弟の上から4番目。父親は海軍士官だった。小学2年のとき、広島から家族で、父親が大正時代に建てた材木座の自宅に戻ってきた。

鎌倉第一小から湘南中学、海軍兵学校に進学し、戦地に赴くことなく終戦を迎えた。

「職業意識はなくて、当時、何をしてよいかわからなかった」

専門学校に2年、卒業してから、鎌倉市大町の洋画家中村琢二画伯にでない。20年我慢できるか」といわれた。泉鏡花の「歌行燈」を引用し、素人と玄人の厳しさの違いを認識させられた。また20代の半ばころで丸一年デッサンに明け暮れた。

鎌倉市台の洋画家・吉崎道治さんとは兄弟でいっしょに稲村ガ崎の夕日を見ていて『小泉君の色が出ている』と画色をほめてくれた」それからは得意な色になった。中村画伯は88年、享年90歳で亡くなった。

「9月中旬からパリで2カ月ほど下宿しながら絵を描くつもり」今年2月、50年ほど連れ添った妻を亡くした。3年余り病院に通った。気持ちを新たにしての旅。

個展や受賞歴も多く、74年紺綬褒章、04年一水会の文部科学大臣奨励賞など。鎌倉美術家協会員。02年から一水会の常任委員。

「ものをよく見て描くことが大切と思う」

穏やかな話しぶりの中から絵に対する真摯な気持ちが伝わってくる。小麦色に日焼けした肌、がっしりとした体格、背筋をまっすぐに伸ばした姿勢は若々しい。

子ども2人の、長女はピアニストの吉田塩子さん。長男は東京にいる。

鎌倉市材木座在住。80歳。6面に関連記事。（C）

歌の解説など聴き、人柄しのぶ
22回方代忌に約2百人が参加

放浪の歌人といわれた山崎方代さんの22回忌が、9月6日午後、鎌倉市二階堂の瑞泉寺（大下一真住職）で行われた。方代さんの故郷、山梨県から貸切りバスで20人が駆けつけるなど、広い客殿は約2百人で埋まった。

大下住職の読経、焼香のあと歌人で早大教授、「心の花」編集長・佐佐木幸綱さんが、方代さんとの思い出を語りながら、短歌と季節について述べた＝写真。

何度か送ってくれた山菜を自分でやって季節の香りを味わったのも、いまはなつかしい。方代さんの歌には雪を詠んだものが多い。雪というと冷たく感じるが、なぜか代さんの手にかかるとあたたかさを持つ。

「ふかぶかと雪をかむれば／石ころもあたたかき声をあげんとぞする」

いくつかの歌をあげながら、方代さんをしのんだ。

そのあと山梨県立文学館の武井輝幸副館長や歌人、友人らが、1985年71歳で亡くなった方代さんの思い出、人柄などを語った。

銀メダル胸に鎌倉市長を訪問
北京五輪体操の中瀬選手

「オリンピック、これ以上の大会はない。楽しかったです」と銀メダルを胸に話すのは、北京オリンピック体操男子団体で2位になった中瀬卓也選手（25）。

鎌倉市梶原の徳洲会体操クラブ所属の中瀬選手が9月2日、同クラブの能宗克行部長、立花泰則監督と鎌倉市長を表敬訪問した＝写真右中瀬選手、左は石渡市長。

個人種目の鉄棒ではさう位に入賞。帰国後、同クラブで「みんなにおでとうと迎えられたが、水鳥キャプテンからは『だめだ』着地が残念だった」といわれたという。中瀬選手は「もともと着地は苦手。でも力は出し切った。いままでやってきたことが報われたと思った」ときびきびした表情で語った。来年も日本代表になることを目標に頑張るという。

北京五輪強化本部員の立花監督は「団体の中の自分の役割をしっかり果たしていた」と述べた。

石渡徳一市長は「子どもたちや多くの市民の動機づけ、勇気づけになった」と称えた。

模擬店や津軽三味線など
にぎわった鎌倉福祉まつり

鎌倉市御成町の鎌倉市社会福祉協議会で9月7日、福祉まつりが開かれ、朝から多くの人が訪れた。81年から毎年行われており、28回目。

屋外では、焼きそば、大学イモやパンなどの模擬店が並んだ。シュウマイは販売前から予約が入り、昼前に3百パックが完売。鎌倉法人会が材料を提供し、「男の料理教室」のメンバー5ら約20人がボランティアで調理した。11年連続の出店で収益は社協に寄付していた。

屋内で点字・手話体験、似顔絵コーナー、体力測定などが行われた。市内の商店の協賛品や市民から提供された物品、障害者の地域作業所の製品などの買い物を楽しむ人も多かった。

ステージは、和太鼓、津軽三味線、ダンスやコーラスなど4団体が出演した。初出場の「エムケー・ダンス・クルー」堀真衣子代表は園児から中学生まで27人が元気いっぱいにヒップホップダンスを披露した＝写真。

車イス体験やおもちゃの広場も好評だった。

本を通じ、皆様のお役に立ちたいと願っています。
雑誌・書籍・文具・事務用品・ファンシー
鎌倉駅東口前　☎0467-22-0266
大船駅東口前　☎0467-46-3841
島森書店

スズキ・クラシック・バレエ・アカデミー
スズキ・バレエ・アーツ　《生徒募集》
http://www.suzuki-ballet.com/
クラス：満3歳～成人初心者及びプロフェッショナルまで
主宰：鈴木和子（谷桃子バレエ団）
講師：赤城　圭（谷桃子バレエ団）アダジオクラス
古谷智子（元英国ロイヤルバレエ団）
清水さくら（シンガポールダンスシアター）
大船スタジオ：0467－47－4343　0467－44－7806
鎌倉市小袋谷2－1－5（火・水・木・土・日）
湘南台スタジオ：0466－45－3034（月・水・土）
藤沢市湘南台4-1-16 ステラコート1F

漢方薬専門薬局・漢方処方調剤
大船の漢方薬
大船漢方堂
〒247-0061 鎌倉市台1-3-10　TEL.0467(47)3311
漢方薬専門薬局ですので、なるべく本人が御来店下さい。
営業時間：午前10時～午後7時　水・日・祝日休業

芋川耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科・アレルギー科・補聴器相談
TEL　0467-24-7273
駅東口徒歩2分　小町通り　壱番館ビル3F

ハロウィンかぼちゃ
近日入荷！
花キューピット　全国にお花を贈ります。
(有)ナカムラ生花
鎌倉市材木座3-9-34　☎0467-25-4187(代)　FAX 25-4188

心なごむ銘菓の数々、ご家庭での憩のひと時に、また贈物にご用命下さいませ。
神奈川県指定銘菓　あじさい
十二所バス停先　鎌倉紅谷　☎(25)2187

かまくらカスター
鎌倉本店　鎌倉駅前本館　☎23・3851
逗子店　ルミネウィング（大船）店
横浜そごう店　藤沢小田急店
ニューシャーマン

七五三のお赤飯、鳥の子餅　ご注文承ります
御菓子司　大くに
鎌倉大町四ツ角　☎　22－1899